

事後評価結果（案）一覧

○ハード分野

番号	領域	タイプ	研究課題名、概要 (詳細は別紙参照)		研究代表者	委託額 (3 カ年) (千円)	事後評価意見 (詳細は別紙参照)	参考意見 (詳細は別紙参照)	事後評価 結果（案）
19-1	7	II	課題名	凍結融解作用を受ける斜面の崩壊予知・災害危険度評価システムの確立	北海道大学 大学院 教授 三浦 清一	30,000	実用性や有効性の向上に向けて、凍結融解斜面の崩壊挙動に関する基礎的な研究のさらなる積み重ねが必要と考えられるものの、寒冷地における融雪災害に有益な斜面管理システムのプロトタイプが提示されており、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 崩壊予知・斜面災害危険度評価システムの精度・信頼性の向上を目指し、今回の取り組みを契機として、実務への適用に向けたさらなる研究を継続いただきたい。 	B
			概要	(※成果報告レポートより引用) 凍結融解に伴う構成地盤材料の力学特性の変化に着目した、凍結融解・降雨複合型斜面崩壊現象の簡易災害危険度評価式を提案するとともに、寒冷地用地盤情報データベースを作成し、凍結融解作用を受ける斜面の災害危険度評価を行うシステムを開発した。また、現行の管理指標に加え地盤の凍上性と凍結深に影響する項目を新たな管理指標とする、積雪寒冷地用の斜面管理方法を新たに提案した。					
19-2	7	II	課題名	津波による道路構造物の被害予測とその軽減策に関する研究	九州工業大学 教授 幸左 賢二	32,000	膨大な実験の積み重ねによる貴重な知見に基づき、研究成果が定量的にまとめられており、実務への適用性が高く期待できることから、今後想定される巨大地震対策の検討に向けての研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁に対する津波対策に有力な研究的貢献をしたと考えられる。 当初の目的に合った成果が得られたものと評価する。今後も Scale Effect と安全率のとり方や流体力学の検討など、実用化のための研究を継続いただきたい。 	A
			概要	(※成果報告レポートより引用) スマトラ沖地震調査による橋梁構造物の被害分析および損傷橋梁をモデルとした水理模型実験、遠心模型実験により、津波による橋梁への作用力および盛土高と越流水深の関係を提案した。ついで、提案した設計手法を和歌山県の道路構造物に適用することにより、実被害度を想定するとともに、対策工の検討を行った。					

※ 事後評価の基準

A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった C: 研究成果は一部に留まった D: 研究成果があったとは言い難い

番号	領域	タイプ	研究課題名、概要 (詳細は別紙参照)		研究代表者	委託額 (3カ年) (千円)	事後評価意見 (詳細は別紙参照)	参考意見 (詳細は別紙参照)	事後評価 結果(案)
19-3	7	II	課題名	各種道路橋床版における疲労損傷の非破壊検査システムに関する研究開発	大阪大学 大学院 教授 鎌田 敏郎	65,950	衝撃弾性波法については、適用限界や精度面の信頼性、コスト評価などさらなる検討が必要と考えられる一方、赤外線サーモグラフィ法については高く評価できる成果があったと考えられる。他方、電場指紋照合法については、本プログラムでの研究成果が確認できない。以上から、総体的には研究目的は概ね達成され、研究成果があったと判断する。	<ul style="list-style-type: none"> 非破壊検査は現下の道路行政における重要な課題の一つであり、維持管理の高度化・効率化を図るため、引き続き実構造物等での検証とコスト面の評価を行い、適用性の高い検査手法が見出されていくことを期待する。 	B
		概要	(※成果報告レポートより引用) 道路橋に使用される主要な床版(RC床版、鋼床版)に発生する疲労損傷の中で、現場での目視確認が困難な為に大きな問題となっている損傷を対象とし、高精度検出できる効率の高い非破壊検査システムを構築する。						

※ 事後評価の基準

A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった C: 研究成果は一部に留まった D: 研究成果があったとは言い難い